

News Release

三浦印刷、「北斎漫画」再摺り事業に参画

2007/11/30

三浦印刷（社長 三浦久司）は、文化事業の一環として、株式会社芸艸堂うんそうどうとの共同事業で「北斎漫画」全 15 冊の再摺り事業に参加しました。（平成 20 年 1 月発行予定）

● 「北斎漫画」とは

多種多様な絵柄をアトランダムにまとめた全 15 冊の画集。人物・動物・植物・風景・建造物・行事など森羅万象を描いた約 3600 余図を収録。文化 11 年（1814）、北斎が 55 歳の時に出版が始まり、6 年間で 10 編が摺られました。90 歳の没後も出版が続き、明治 11 年（1878 年）に 15 編で完結しました。弟子たちの絵手本にとどまらず、ベストセラーとなり、さまざまな工芸の図案集としても利用されました。また、欧米では「北斎スケッチ」と呼ばれ、ゴッホはじめ多くの画家に影響を与えました。版木が、二つの版元を経由して、明治 44 年（1911 年）に芸艸堂に買い付けられ、保管場所が京都に移されたことから、関東大震災や第二次世界大戦の空襲を免れ、再摺りが可能となりました。

● 三浦印刷が「北斎漫画」再摺り事業に参加した理由

当社では、創業 50 周年（1982 年）に際し、ボッティチェルリの「春」と「ヴィーナスの誕生」を収めた画集「天上のヴィーナス・地上のヴィーナス」を当時の最高の印刷技術で制作して、国内外の美術館に寄贈しました。また、2005 年には、版画集「蘭花譜」の再摺り事業に参加し、寄贈や展示のための貸出しを行いました。今回の「北斎漫画」再摺り事業は、この一連の文化事業の一環として、日本文化と日本固有の伝統技術の発展に寄与するため参画しました。

また、当社ではカラー印刷の源流は江戸時代から続く多色摺り木版画（錦絵）であると考えてきました。多色摺り木版画は、その品質の高さや、量産されたという事実から、世界に類のないカラー印刷の源流といえます。

● 「北斎漫画」再摺り事業

今回の再摺り事業で制作される「北斎漫画」は、写真複製本とは異なり、往時と同様の方法で制作され、用紙や表紙も当時と趣きを同じくする和装本に仕立てられます。紙は「須崎半紙」といって、高知県の津野町の漉元で漉いたものを使用し、3 人の摺師が約 8 ヶ月かかって全 15 編・434 丁を 150 セット摺りました。また、当時の形態と同じ和装本で仕上げるため、その技術も必要でした。版木の伝承と現代の職人たちの手技によって再現されるこの事業の文化的な意義は高く、多大な関心が寄せられることになると思われます。



東京都江戸東京博物館では今年末から来年初春にかけて、葛飾北斎に関する展覧会が予定されています。

■特別展「北斎～ヨーロッパを魅了した江戸の絵師～」展 平成 19 年 12 月 4 日～平成 20 年 1 月 27 日

■企画展示「北斎漫画」展 平成 20 年 1 月 2 日～2 月 11 日

「北斎漫画」の再摺りと使用した版木等を展示